

研修No.101

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 30日
研究・研修課題名	地域循環型骨粗鬆症リエゾンサービス体制の構築および「二次性骨折予防継続管理料」算定に伴う骨粗鬆症マネージャー認定取得と認定更新に必要な単位取得
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション科
研究・研修責任者名(所属)	遠藤進一(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	酒井康生(リハビリテーション科)、遠藤進一、池淵明美伽(薬剤部)、石川万里子、家本美佳、中井拓也、深田真衣(看護部)、川本晃平、野口瑛一、佐々木翔太(リハビリテーション部)、足立友紀(栄養治療室)、新藤陽子(放射線部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input checked="" type="checkbox"/> 認定更新 <input checked="" type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	
学会名(会期・場所)、認定名等	・第24回日本骨粗鬆症学会(9月2日(金)～9月4日(月)・ハイブリッド開催、現地は神戸) ・骨粗鬆症マネージャー認定試験(10月30日(日)、東京)
演題名・認証交付元等	日本骨粗鬆症学会
取得日・認定期間等	2023年4月1日～2028年3月31日
診療報酬加算の有・無	<input checked="" type="checkbox"/> 加算有(二次性骨折予防継続管理料) <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

近年、骨粗鬆症治療におけるリエゾン(liaison)サービスが注目されている。その目的は、骨折リスクの評価と新たな骨折の防止、また、最初の脆弱性骨折の予防であり、サービスの提供対象は大腿骨近位部骨折、その他の脆弱性骨折例や高齢者一般である。すでに英国、豪州、カナダでは骨折リエゾンサービス(FLS)としてこのようなサービスが実施され、骨折発生率が著明に低下し医療費減少に大きく貢献したとの報告がされている。一方、本邦においても、日本骨粗鬆症学会を中心に一次骨折予防を含めた骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)の取り組みが全国的に広がりを見せ、同様に骨折発生率や再骨折率の低下等の成果が報告されている。当院でも、数年前から主に再骨折予防を目的としたFLSを開始しており、出雲圏域では急性期から在宅までシームレスな対応を目的とする「出雲こつこつネット」も立ち上がり、出雲圏域での地域循環型のサービスの提供が可能な状況である。さらに、2022年の診療報酬改定において、「継続的な二次性骨折予防」に係る加算が新設され、施設基準においてFLSチームの設置は必須となっている。この加算で急性期施設では「二次性骨折予防継続管理料」として1000点(1入院につき1回)が算定できるようになった。また、回復期および開業医においても別途、算定が可能になったが、その要件に急性期施設での「二次性骨折予防継続管理料」の算定があることが必須とされており、当院が算定することにより、県内の医療の充実化につながるものと考え。そのファシリテーター的な役割として日本骨粗鬆症学会認定資格として骨粗鬆症マネージャーがあり、当院は県内最多7名が取得している。骨粗鬆症マネージャーは「二次性骨折予防継続管理料」の算定だけでなく、地域の骨粗鬆症治療においてリーダーシップを発揮し、より実効性のある骨粗鬆症の予防と治療の普及につなげる上で重要である。その認定取得には所定の講習会と学会参加、認定更新には学会参加と指定講演の受講が必須である。また、学会に参加することで骨粗鬆症に関する最新の情報や各施設でのリエゾンサービスの活動について広く知ることができる。これにより、急

性期および回復期施設、開業医、行政と連携した出雲圏域を含む島根県における地域循環型の骨粗鬆症リエゾンサービス構築することに繋がる。

②方法

第24回日本骨粗鬆症学会に参加し、参加者が最新の情報を入手しスキルアップを図り、他のリエゾンメンバーおよび院内スタッフにその内容を広く報告し情報共有を行う。また、同学会の骨粗鬆症マネージャー更新単位となる指定講演を聴講し単位を取得する。

また、骨粗鬆症マネージャー認定試験（開催地：東京都）を受験し、骨粗鬆症マネージャーの資格を取得する。

②成果

今年度の日本骨粗鬆症学会は現地＋WEB形式のハイブリッド開催となったため、より多くのスタッフの参加が可能となり、計7名のスタッフが参加することが出来た。参加により、「骨粗鬆症診療支援サービス」(Osteoporosis Liaison Service、OLS)の役割を担うための骨粗鬆症に関する知識と最新の知見を取得出来、より一層充実した骨粗鬆症の予防、診断と治療を提供することが可能となった。また、同時に学会参加と指定講演を聴講することで単位を取得することが出来き、骨粗鬆症マネージャーの認定更新に必要な要件の一部を取得することが出来、うち1名が資格を更新することが出来た。さらに、骨粗鬆症マネージャー未取得者において、骨粗鬆症マネージャー認定試験に計3名が合格し、より充実した骨粗鬆症リエゾンサービスの体制構築が実現した。